

筑紫紀行

五

庫	文	閣	内
一七		三六	和
函		五五	書
二〇	一	七	
架	冊	號	類



地四八

内閣文庫	
番號	和 36557
冊數	10 (5)
函號	177 1128





筑紫紀行卷五

四月廿七日あけ方をり空晴ぬ郊刺さふく宮の宿をまき町のお
 裏(おま)バ筑後川の堤あり堤よりて四丁バ渡津あり川向を
 筑後の國をり舟を乗り渡りて彼方の堤を三丁バ長井川より
 け筑後川は落(おち)くまきりて流る川溜(たまり)二十間計川底は切石をすま
 万をくぬあふたり川を流る長野村町お三丁軒商家はれど
 茶屋(ちや)あり次官田村竹藪(たけくさ)の周(こも)に家居(いえ)て四丁隔(へ)て下
 官田村あり又十丁バ行(な)り若菜村片側(かたがは)の町あり商家はは町中(まちなか)に
 八幡(やまはた)の社(やしろ)あり七八丁バ筑後の吾井町あり久留米より久留米乃
 後の山(やま)をり堅橋(かたはし)の町あり人お三丁軒あり商家多く茶屋宿



○卷五

屋あり十五丁以上あり村人家十軒計あり商家茶屋あり三丁
行ハ一里塚あり之茶屋ありけさき道を傍小滝をせと極るを
し。吉井此町をせしより右左に用水ますし。清き瀧川流きて
中此境のとを道として行あり。又半里に桶村人家二十軒計
商家あり茶屋ありけさきをせし。南に六里東西に十里計
をる膏腴の沃田あり。粟種を多く作り。麦もいそしく出来ぬや
足ゆ。烟草藍も好くも多くと。上田に免十三と。又下田一反
代六十畝文計の首四半納む。蠟の室とある時。實一斤は付くと
納する。何程よく蠟を売り賣時。蠟一斤は付くと納する事何
程よく定まりありと。運ぶの如く。二里ありといふ。かくて半

里りて吉田町に至る。人家三十軒商家茶屋あり。二丁隔て田
丸町人家三十軒。三丁計の程あり。商多し。茶屋十軒
あまり宿屋あり。を旅り。半里計にばまもり村あり。けさき
道の右左各二丁を隔て。村を並び続きたり。室あり。けさき村。人
家三十軒商家あり。茶屋あり。二十丁より川あり。古橋
より渡り。大橋村に茶屋あり。軒あり。半里餘り行い。善導寺
前町あり。人家三十軒計。縦横あり。多く農家あり。茶屋
宿屋あり。善導寺といふ。多く系拜也。碓氷の本山に大門あり。
内山門あり。法堂十六間四方あり。阿彌陀の坐像を安置する。
寶庫。釋迦堂。三祖堂。鐘樓堂等あり。釋迦堂は祈禱の

二字と額がくよかけたり。寺内ふたある楠の本あり。ち録にふた石。又八僧
正の位あり。とてり。とれり。三戸下は。与田村。茶屋休い行り。吉井町不
けも。とち。け水みづの難あむ。又十宮下は。出茶屋一軒あり。
家の傍かたは。那境の印あたり。東八本。西は井郡あり。けも。より南乃
あふ。屏風や。屏風と。さる。や。山あり。十宮下は。追分村。村あり。
町あり。ふか。中。十軒茶屋。園あり。村を離とちき。ふ。計。は。松崎
乃の追分あり。又。ふ。下。は。府中町。ふ。至まふ。是こ五里。是も。久。米。の。出。録。
人が。二百軒。茶屋。宿。屋。多く。本陣あり。薩摩。肥後。等の。國。より
往來の。驛路えきぢあり。驛場えきば乃。前。即。高良山たからの。山口あり。石の。集あひ。は。
く。ま。り。銅の。額がくふ。玉。垂。官たま。さ。る。を。か。け。たり。け。津。社。八。延。武。神。名。

帳ふ。筑後國。三井。乃。高良玉。垂命。神社名神大。中。あり。て。日本。後。紀。續。日本。
後。紀。三。代。実。録。ふ。進。階あひ。の。事。あり。ふ。里。人。八。武。内。宿。祿。を。あ。る。と。い。ふ。
ま。ま。け。國。の。一。乃。官。あり。と。の。ふ。集。の。う。ら。に。下。馬。の。杭。石かを。さ。り。せ。り。
入。く。六。丁。目。ふ。道。の。傍かたふ。沈しむ。他。中。に。崎。あり。て。蕪。鍊。さ。る。を。や。を。極。交まひ。
入。り。ある。岩。も。紐。と。て。反。橋。を。ひ。り。沈しの。中。に。池。あり。と。い。ふ。高。峰。
乃。社。あり。右。の。か。い。さ。る。ふ。新。清。水。と。て。観。音。堂。あり。か。ん。遠とよ。せ。る。
舞。臺。又。廊いふ。と。り。石。の。五。重。れ。塔。あり。左。の。方。小。松。を。靈。林。の。ま。り。
も。前。ふ。池。人。の。業わざあり。て。さ。る。は。八。寸。四。方。計。ある。碑。を。ま。て。面。は。
い。ま。より。八。ぬ。さ。も。な。らん

近江粟津
義仲寺
室庵
松尾を丸



筑前国三井郡
高麗山之風景



と彫りて表まをりし。歌八出雲八重恒連歌八甲斐の酒折の社祀
借はつくく。良山栳を霊神のまして永く風流のるを守護のよ
寛政五年丑十月 筑南米府 石田殘道 本田魯之 中田秋賀
とある。かの森養より眺望されば池中島の佳景をいはず面
白し。兼師堂。地藏堂。執石。法馬蹄石。観音堂。虚空蔵。
大神宮。大神宮の隣前よりとむる。伊勢天照御祖神所。載延
喜式。當國大小四座之内也。彫りしは神社も進階のます。
又ゆ。九丁目。善光寺如来分身佛像。十二丁目。如意輪觀
音のたけ。海すとひたせの觀音と稱す。十三丁目。元天師堂。
十四丁目。地藏。不動。とくに茶室一軒あり。是より松の本と名よ

棟より。石の五重塔をたて。赤き木のを集りて。みえ高良玉垂
宮と何れ額をうけたり。を集り入るはよりあり。をあまをり。礎を面
十五段のやま。本社あり。は前より銅のち水鉢。香爐。石の駒。大あま。社
拜殿。檜皮葺。西向。二股の松。法林。本とこ。
豊比咩神社。前より。所載。延喜式。筑後州大小四座之内と
あり。たり。かくて。毘含。門。名。よ。八。下。ま。は。清。神。廟。あり。末社
す。ぐ。五社。鐘。樓。大。日。堂。を。ひ。り。茶。室。三。軒。あり。す。ぐ。堂。舎。の。名。
栳。華。好。よ。一。七。新。く。ま。あり。た。る。所。く。と。ま。い。美。く。あり。あり。
社。傍。を。座。ま。と。稱。し。七。位。の。授。給。寺。領。の。地。あり。千。石。あり。と。い。ふ。
かくて。町。小。陽。町。を。出。離。して。三。丁。目。に。出。茶。室。あり。是。より。なる。あ。傍。

杉を並本は植たり。十丁五丁は光楽寺村中、小湊川のつら木橋を
うけたり。橋の側は茶屋あり。五丁行は五穀乃神社あり。銅の集小
五穀神とかる額を掛たり。深川親和が身跡を集まは泉を築山。
松も面白くしてまひて石の名集りり。拜殿本社の上まひと
華嚴寺あり。佛は山に地蔵ありて親世を安す。田山園通寺とて
高木宗の寺僧是と守まひ。げ石を置く二三丁は久留米に至りてく。
府中より一里ある中務を彌後乃は城下あり。入より出は二三丁あり。
は城の塀のそとにて天守やうらやういふ寺あり。町の入口熱門の内ふり付
番取あり。入より十丁の所で本町と稱す。町の松すくも何れも久留米
板葺みく。松石を置くより。まひよりはまを裏町と稱して皆州葺み。

本町字目の長門を治助といふ宿。宿をより。げ石は客舎に二
軒あり。いあふといふ。

○廿八日。外刺り宿をな。城下と出く。五丁は繩子町と片
か。この町中町計あり。續いて瀬下町と十町計。賑しく打簀きたり。高
木多く茶屋あり。まひを離して二十丁は筑後川に至る。川かをふ
番所あり。舟よく渡る。川の所あり。まひ番所あり。川をまひれば肥前の水
あり。肥前の國豆津町。久留米より一里と一里と。佐賀の内館。農家多軒
計。町屋立ちあふ。びなまで茶屋商あり。まひより川堤は杉の木まひり
おひら申と十町計。びなで町人家二十軒計。様油を商ふ家多し。
七八丁は松本村。傳は茶屋二軒あり。の。後のまひ家あり。

高麗鳥之圖

此鳥ハ肥前の國ニ多ク
尋常此鳥よりハ形チ小
くして白キ鳩あり里人の
庭樹或ハ林中ニ群集ト其
形状甚美アリ



ほいて白く村あり。宇計り、東尾村、二丁計り、西尾村、二
十軒計り、南茶屋河、小川のあるを、ちより渡り、十丁河、河
け、中尾村、二、人が二十軒計り、茶屋も河、村を、出離でるて、行な
高藤こうとうす、こい、あるを、見、相根の中、程、白く、河、尾、ク、く、
こ、子、鳥こがらの、や、十一丁、山、て、ぞ、村、人、早、軒、計、茶、屋、を、小、川、の
ある、と、ち、より、渡、り、七、八、丁、中、尾、村、農、家、三、十、軒、計、あり、け
こ、蟻あまを、の、木、多、く、二、三、丁、バ、大、尾、の、こ、け、の、宿、り、西、口、は、出、二、丁、計、り、
た、で、宿、人、早、軒、計、茶、屋、河、の、出、口、は、橋、の、あ、る、を、渡、り、十、丁、計、り、
バ、神、崎、の、ふ、る、豆、津、り、人、早、軒、計、茶、屋、宿、屋、多、く、と、旅、は、
佐、賀、の、山、越、こ、六、丁、バ、新、宿、屋、の、片、側、は、家、居、十、軒、計、あり、

あ、に、叢よみを、作、り、賣、十、丁、計、り、郡、境、の、ま、り、あり、東、八、神、崎、の、
佐、賀、の、山、越、こ、六、丁、バ、塚、系、ま、る、神、崎、り、ま、の、町、も、い、人、早、
田、早、軒、茶、屋、宿、屋、河、の、佐、賀、の、山、越、こ、六、丁、の、宿、り、十、軒、計、り、バ、ち、り、由、
町、茶、屋、河、の、又、二、丁、計、り、バ、松、の、下、の、ま、出、茶、屋、河、の、七、八、丁、計、り、
町、人、早、軒、計、あり、茶、屋、多、く、又、六、丁、り、て、板、橋、の、ま、る、川、を、渡、
ま、バ、佐、賀、の、入、口、塚、系、り、佐、賀、ま、り、一、里、八、丁、佐、賀、八、平、肥、前、の、後、三、十、六、の、出、下、
あり、入、口、は、越、門、の、付、番、西、河、の、町、に、長、く、お、草、葺くさむの、家、交、り、て、
見、ゆ、中、も、白、山、町、の、い、り、河、り、家、居、多、く、は、橋、八、通、筋、の、ま、る、を、
かく、て、一、里、程、り、て、は、橋、下、北、西、の、口、と、出、ま、バ、長、瀬、町、二、十、軒、計、り、ま、
た、あり、内、小、宿、屋、三、軒、あり、は、橋、下、の、ま、り、は、國、の、町、茶、屋、も、村、ま、る、

乃の辻ごとふ石の多びすとたなり。豊前筑前筑後の月、松ありて、皆猿田彦此神を石をく作り。又い石小庚申の天を彫りて建てり。こ又け國の内は通用する米札あり。

覚

米何程由何の秋津物成を以て下相渡り

會和米印

と押たるれきり。米を舟を渡り又よあてて。一舟よりを石と乃れつらんとすより五六丁に、加瀬町商多多く、茶屋もあきて五丁計つらり。六丁計り、向町人家三十軒計茶屋もあき。町の出口は加瀬川流きより。濶二十間ある。板橋より渡りてとくま宿ふ至る。四丁計

の町より。茶屋あり。十丁計り、久保田町人家五十軒計あり。茶屋を
あり。五丁計り、郡境のきり。東は佐賀郡。西は小城郡とてたてり。又三
下計り、半澤宿ふ至る。佐賀より
も二里と、小峠をの後の山あり。人家百六七十
軒計多く、艸葺あり。茶屋宿屋あり。宿屋三間の中は、擇びて、お茶屋
宿屋あり。宿屋。家屋あり。客席きやく津津ありて。是の町下りら
りてあり。懇けんふりやかし。

○廿九日晦。空陰きり。卯刻より立出。宿の出口は古橋を渡せる川を境
として、川を渡せり。新町とて是も小峠の山あり。家屋三丁計あり。つら
茶屋を何れけ。出口も又川あり。古橋の長さ十七八間あり。渡りて六丁
計り、砥川町。是は佐賀の由良之町の長さ三丁計茶屋あり。町と雜まじりて

五丁計りバ新宿村人家三十軒あり茶屋あり。又五丁計りバ八幡村人家四十軒計茶屋あり。三丁計りバを宿人家四十軒計商あり。け入口郡境の表なり。東小塚新西杵崎郡とあり。十丁計りバ後宿人家百五十軒計茶屋あり。次山田村に併ぬ軒立にタきたり。茶屋あり。二十丁計りバ小田の宿あり。牛陣より是ト三里三丁 佐賀乃は銘き人家百軒計の宿あり。宿を茶屋あり。村の出口乃若れあり。観音堂あり。寺内小大なる楠の本ハをカてタる。其生木の本ハのハ程あり。雨をサりて。観音の像を彫キつけたるあり。行基菩薩の作と云傳ハる。七八丁計りバ富田村農家三十軒計あり。茶屋あり。六丁計りバ大町で商家造酒を茶屋農家あり。丁計りバ立つタたり。町を離テて十餘町計り。

福母村人家十軒計あり。茶屋あり。それより西へ人家三軒つゞく。二十丁計りバ境田越ると柄崎と云追分の所なり。人家十軒計茶屋あり。柄崎の方面十丁計りバ西へ村農家二十軒あり。又十丁計りバ小田の宿小田より二里十七丁 けいハ端宿人家七十軒計皆農家あり。宿を河れども農家あり。の宿を茶屋あり。十三丁計りバを橋町。小田より八家居より。商あり。茶屋あり。宿あり。町のせと。四丁計りあり。築前の久松をとおすあり。けいハと平なる。まのり。かゆ。小田よりハ又山のまのり。初ぬ。二十丁計りバ川原村人家二十軒あり。河あり。十丁餘り。柄崎宿。一里十三丁 人家四十軒計佐賀のあは流の銘地あり。けいハ濕瘡疥瘡をタり。と云温泉あり。遠



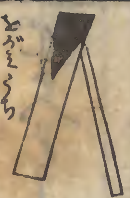
肥前国
柄崎、
温泉



近^{えん}の人湯治^{あつめ}より集^{あつめ}るるにまて宿屋茶屋も多^{おほ}し十丁餘^{じゅうじゆりよ}バ
 と西山村人家三戸^{さんこ}づつありて茶屋もあり細^こき川の湧^わ津^つあるが
 ありと飛石を流^{なが}しむより湯^ゆを^とりて山^{やま}を十丁餘^{じゅうじゆりよ}り登^{のぼ}れ^ばあ^の
 所^{ところ}より^{より}二十丁^{にじゅうじゆ}を下^{くだ}す内^{うち}田^{でん}村^{むら}を^を傍^{わがは}へ^に入^いり^て
 軒^{のき}を^を中^{なか}より茶^{ちや}屋^やあり六^む丁^{てい}は^は小^こ川^{がわ}あり飛^と石^{いし}を^を多^{おほ}く^く假^{かり}橋^{はし}を
 もか^かけ^けるより^{より}湯^ゆを^を三^{さん}丁^{てい}は^は袴^{はかま}建^{けん}村^{むら}を^を傍^{わがは}へ^に入^いり^て
 中^{なか}より茶^{ちや}屋^やあり次^{つぎ}中^{なか}より村^{むら}あり右^{みぎ}の^の二^に丁^{てい}計^{けい}引^ひ込^こむ山^{やま}の^の中^{なか}より村^{むら}
 とて人家百軒^{ひやくけん}計^{けい}又^{また}色^{いろ}け^け村^{むら}あり^て焼^{やく}土^どの^の陶^{たう}器^きを^を焼^{やく}す唐^{たう}津^{しん}焼^{やく}
 と^と中^{なか}の^の下^{した}品^{びん}あり^て即^{すなは}ち^ち是^{こゝ}なり^と是^{こゝ}より^{より}山^{やま}を^を十^{じゅう}餘^{じゆ}丁^{てい}を^を越^こへ^ば坂^{さか}は^は村^{むら}より
 人家十軒^{じゅうけん}計^{けい}茶^{ちや}屋^やも^もあり^て是^{こゝ}より^{より}山^{やま}坂^{さか}を^を十^{じゅう}餘^{じゆ}丁^{てい}を^を越^こへ^ば坂^{さか}は^は村^{むら}より

二十丁計^{にじゅうていけい}下^{した}ま^まバ^バ埴^は田^{でん}越^こへ^ば柄^へ崎^{さき}なる^の邊^へあり^て次^{つぎ}中^{なか}より宿^{しゆく}人家^{にや}三^{さん}丁^{てい}は
 多^{おほ}く^くあり^て是^{こゝ}より^{より}皆^{みな}農^{のう}家^かあり^て茶^{ちや}屋^やを^を十^{じゅう}丁^{てい}計^{けい}は^は袴^{はかま}建^{けん}宿^{しゆく}
 三^{さん}丁^{てい}佐^さ賀^がの^の庄^{しやう}領^{りやう}人^{にん}家^か百^{ひやく}餘^{じゆ}軒^{けん}宿^{しゆく}屋^や多^{おほ}く^く茶^{ちや}屋^やも^もあり^て申^{まを}刺^し以^い大^{だい}田^{でん}
 平^{へい}七^{しち}と^とい^いふ^ふ三^{さん}丁^{てい}は^は宿^{しゆく}に^にけ^けは^は温^{おん}泉^{せん}あり^て所^{ところ}屋^やの^の南^{なん}東^{とう}の^の川^{がわ}と^と川^{がわ}の
 中^{なか}より湯^ゆ涌^わ出^で湯^ゆ槽^{そう}も^も七^{しち}あり^て十^{じゅう}丈^{じやう}湯^ゆ二^につ^つ又^{また}湯^ゆ三^{さん}つ^つ湯^ゆ二^に
 あり湯^ゆ槽^{そう}も^も二^に湯^ゆ口^{くち}水^{みづ}は^は左^{ひだり}右^{みぎ}ふ^ふか^かせ^せり^て浴^{よく}する^る人^{ひと}の^の好^{この}み^{みや}は^は近^{ちか}く
 加^か減^{げん}を^を好^{この}む^む熱^{ねつ}を^を好^{この}む^む湯^ゆは^は近^{ちか}く^く居^いぬ^ぬる^るを^を好^{この}む^むは^は近^{ちか}く
 居^いて^て浴^{よく}する^る効^{きう}能^{のう}は^は腰^{こし}痛^{いた}を^を愈^いす^すと^と第^{だい}一^{いち}と^とて^てま^まか^かも^も万^{まん}づ^づふ^ふ
 と^とあり^て又^{また}地^ちの^の名^な産^{さん}を^をて^て煎^{せん}茶^{ちや}の^の葉^えと^とる^る家^か多^{おほ}く^くと^とて^て肥^ひ前^{ぜん}の^の
 地^ちは^は入^いり^てより^{より}農^{のう}人^{にん}の^の用^{もち}る^る鉄^{てつ}の^の土^どは^は多^{おほ}く^くあり^て





長一尺六寸計 潤三寸計 圓乃如くある 淋とて 出因伏ありて

お打は打ちさるゝ暮あり雨あり出ぬ。

○五月廿九日刻さふ立出雨ありてよび。十丁計りて聊ある坂を一
越さば下不動山村。是より平道十丁餘り。いふ川あり。花石を踏て渡る。
是より不動山をいふ。丁登れ。唐茶とまき多き。煮ていけ山の名。おと
いふより。又十丁程をまき。俵坂峠をまき。七八丁坂を下れ。番ありて。従来
人の切目を改む。番ありて。出さば。農家十軒計あり。俵坂村といふ。かくて
山より。又十丁。いば。飯地之境。いば。佐加。飯。南。大村。飯。と。ま。せ。り。と。い
丁。いば。新。宿。人。家。十。軒。計。茶。屋。あり。是。より。ま。び。下。り。て。又。十。四。丁。
と。ま。さ。ば。楠。坂。と。い。ふ。大。ある。楠。あり。本。際。は。大。穴。の。あり。より。の。ぞ。と。い。ふ。れ。い。は。

空より。て。豊。席。田。豊。計。ある。て。い。ゆ。る。よ。と。い。ふ。枝。茶。の。舞。茶。せ。る。り。
數百人を。其。蔭。に。ま。り。む。び。一。是。より。又。六。丁。下。り。て。い。は。村。茶。屋。四。五。軒
あり。是。より。平。道。い。ふ。川。を。渡。り。て。十。五。丁。い。ば。彼。岸。小。ま。り。は。妹。神。あり。
海。の。湊。さ。く。お。い。ふ。軒。あり。宿。屋。茶。屋。あり。大。村。の。度。の。中。に。い。け。所
あり。時。津。と。い。ふ。渡。渡。れ。い。は。崎。と。十。里。あり。い。ふ。よ。と。い。ふ。と。い。ふ。渡。を
して。出。は。い。ふ。川。の。あり。と。い。ふ。渡。り。て。海。を。と。ほ。い。ふ。の。尾。り。と。い
た。と。と。り。下。り。て。半。里。計。い。は。十。と。い。ふ。村。い。は。漁。浦。人。家。二。百。軒。計
あり。茶。屋。を。い。は。又。十。丁。い。ば。濃。戸。村。を。傳。り。人。家。五。六。軒。商。家。あり。ま。り。も
茶。屋。あり。い。ふ。川。の。あり。を。か。ち。より。渡。り。て。の。ぞ。ある。坂。と。十。丁。計。登。れ。を
ま。の。く。村。人。家。三。三。軒。づ。つ。あり。より。坂。と。二。三。丁。下。り。て。同。ハ。程。回。り。て



○卷五

十四

把持坐落は村の
境内なる桶の圖

把持坐落は村の境内なる桶の圖
 此の圖は、把持坐落の境内に於ける桶の圖を
 示す。桶は、把持坐落の境内に於ける重要な
 物であり、其の形や大きさ等は、把持坐落の
 境内の特色を示す。此の圖は、把持坐落の
 境内の特色を示す。

西へ東へ坂の中程は小川のあるところからより降りぬがて山を登り
して小川をさして又登り上り坂中に人家三軒あり是れ程の
くこれ内よりこの小川より渡り下りて十四丁にバ松東の宿に
至る。被褥（まど）は三里。是れ大村の宿に人か百軒計多く、漁者又ハ鍛工（かぢや）
多く、茶屋宿あり、宿りなり。同宿の宿りて宿をすく、二軒あり
のこけしと出て平乃十二丁にバ福吉村農家三十軒計あり
茶屋あり。村中より小川あり、飛石を渡りし、渡り十丁降り、巴小川路。
人家三十軒計酒屋茶屋あり、宿りあり、傍の並木松杉を種へ
植り、二十丁計り、巴やうへん、平乃十丁計り、つゞき、町あり、町中より
細き溝あり、そとより橋を架し、植り、中程より本橋より大木の

松あり、かくて所を離れ、又松杉の並木あり、平乃を十丁計り、
くじて川村、平計の町を、村の宿は小川あり、飛石を渡り、渡り、
渡り、大村中、（松東より）大村伝、濃者、（二万七）乃、は、下、之、城、ハ、町、あり
あり、あり、町と通る、十丁計り、入口、出口、ハ、草ぶき、多し、中程
の家、居、ハ、あり、く、狭く、し、下、く、け、後、の、山、は、小、ハ、丸、瘡、を、嫌、ひ、通
て、煩、悩、され、人の、面、は、麻、子、す、く、う、く、く、（列）、下、村、の、娘、を、め、く、
肌、理、細、緻、あり、て、何、れ、も、農、人、の、風、あり、かく、て、町、を、離、き、て、小、坂、を、登、り、
下、り、して、十、丁、計、り、バ、茶、屋、あり、二十丁計り、巴、田、村、に、あり、大、村、あり、
番、屋、あり、村、の、出口、小、川、の、河、を、さ、り、より、渡、り、十、丁、計、り、巴、田、茶、屋
十軒計り、あり、坂、を、登、り、バ、田、路、に、あり、赤、土、地、を、く、る、一、二、丁、計り

坂を下る。谷地境の表東ハ佐賀領西ハ大村領とのり。又四五丁下れば
佐賀領の番所あり。半里餘りハ茶屋の宿。大村より佐賀の表は元
の谷地之町乃長三丁計皆農家也。茶屋商家僅ハ三軒イ
ハ茶宿屋といふ定まりてハあらず。同屋はは宿を求む。山口
半次郎といふ宿。

○二月陰朔刻（毎朝）と云ふ出立ハ赤土まで行り。而も小川にづり坂
あり。一里計ハ七貝村に宿。人家二十軒茶屋あり。是ハ山を
登り下りて小坂を登つて越く。又一里ハ九山村。人家二十軒計茶屋
あり。又十町計走り行ハ九山峠。此ハ谷地境の南ハ茶屋水江
彼岸とあり。峠をりて十丁計ハ谷地境の表東ハ佐賀領西

公儀代官より本作を興。支配あり。又十丁計ハ古賀村。家
三軒づつあり。あり。茶屋一軒。辰棚の足裏に喰垂たるがある。ふま
りて。志（い）休（い）か（い）う（い）玩賞（い）して立出。小川をわたり。渡
は古賀町。人家三軒。茶屋商家あり。町の出口ハ又小川の名を
古橋よりとりて十丁計ハ楠川といふ川あり。わたり。渡は
茶屋三軒あり。又十町計ハ又小川の名を古橋より渡れば矢立
村に至る。人家百二十軒計。茶屋宿屋あり。谷地ハ茶屋小
同。已刻以京宿茶市宿をりといふがまに今。長崎の宿ハ茶
定めんと。形骸を遣（い）て宿を待つ。休息。居る。酒飯を申
とく。吸物を誂（い）（それハ）寸計の鯨を煮物して。平旦ふ盛て出せり。

早中流より近づきたるに料理のさきも異國より近しやと美極あり
りと笑ひあぐらんを共に飲食して主をよびてけさのり何と
同合せぞとて休む居まりかて龍脚も帰る来り旅宿のり心定
ぬまば申刺さふ出町ツツの出口は佐賀より付まらる番河りて佐
来の人乃切子を改むきとてて凡先より十字計の地境
の印南の佐賀銀の公儀ありなり。三丁計坂をせきば腹
切坂の時三丁計下まは日見村夫より二里公儀の由銀平農家
十軒あり村おがら所之町の中程は川ありて石橋をよせり是より
磴道いざを十丁計せきば川内村人お十軒計の茶屋あり坂を下り
小川とかりよりこれ坂下村是も人お十軒計の内茶屋一二軒

あり是より石と敷らるると三丁計登れば坂路は後々ありぬ又
十丁下登り道傍ふま朱先生の墓塚といふあり石碑の形も印
の如く是も二尺六寸計の獅子の印紐をほき下ハ一尺四寸長
二尺計の石面ふま朱先生の墓塚といふ字は書て

若うともせりる朱一花すき

去来

とありこのま朱先生は此國乃学問所の学以向井氏の男なり
りるが俳人ありてりあんまやま歴遊してたつと通し親族を訪らひて
ま出る時けちをたて海別の向してありかて又三丁計せきば
多く茶屋は軒ありげりて志ざり休む小日没里ぬ是も
磴道いざを下る事十丁計して本河内村に至る人お少く見ゆあり



肥前国
東河内村
谷川
夜景之
圖



よき川ありけりありより先こゝ二十町りの河川岸ふも多しゆを
當あ中にに數百萬のの管とひく事たえず風を乱る柳の光あらが
ごとくあらうていま濃一園とあるを何もも目を仰きありゆま
れるふ

旅ころもうまもすれく夏むのまらく川もり
まやるまりつかはばやぶ日られそくたどりゆらふ景昌
みく皆人被と結れ刺たくたる月代の光と星の光もも
めくハ景も中まどやもどいハ世の男

元正競よせり解業かく仕りいらん中でいまおは
合ていられしまそ六七丁行ハ網の場并は橋結不あらんどの

下よ一津川といふ川は石橋をたらふと渡りて二町りハ長崎の
入口也日の入りり也入口ハ六丁といはれ場を村がくれ町をれり
門の内に入るまじハ長崎の町中にれるといふ石多く切るとあ
らふもあらず門は今もあり六七丁ありて銀屋丁田徳屋なまり
こいが方は成刺といふといはれ宿すらいけ地は滞留の目乃宿所はよ
定めらる家の名ハ王の名ハ平次といふれで妻女の名といて結す
ありけ家の息男後に妻ハ旅行けた家はあらず公義の由に
みく異國と通商の官地みらぬ旅人を送めせしむらふもあらず
まくも後嚴密なり宿まりまり所のこもも通りて住居
事の切りといはせば下役人事ありて宿まり旅人を引連れ役人

ある役場へ出宿を奉付を以てし、いよく何國の何某あり、
当地へ飛越し、おれおれ何々の縁を以てお着仕を付滞留し、
もろとつと越とすまごけて旅人役旅宿を對して國元のまきほ又
用奉の趣き細よ尋問て、詔りおま体を足定めたるし、まき日限を
去渡す見物のために来る者よ、百日と限し、用奉よりまき來
たるも親類と訪ひし来るも日限皆同一。商賣乃のみ来る、
二十日、唐紅毛の入れ商賣は来る、八十日、藝者稽古又ハ奉書梅
の為中つし、時ハ五ヶと限り、すといふ我輩ハ用奉よりまき來
たる者のしと通せしむ。

筑紫紀行 卷五終

